みんなでまもる土岐川・庄内川

＼ みんなで取り組もう ／

土岐川・庄内川の流域治水

中流域編

年　組　なまえ

目次

1 わたしたちの土岐川・庄内川流域 1

（1）土岐川・庄内川ってどんなところ？ 1

（2）「流域」ってなに？ 5

（3）庄内川中流域の特徴 7

2 水害時における危険 10

（1）平成23年9月台風第15号豪雨では どんなことがおこった？ 10

（2）この地域ではどんな水害に気を付けたらいいの？ ... 17

3 水害時にわたしたちがとるべき行動 22

（1）水害がおこるまでの身の周りの変化 22

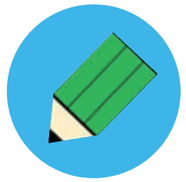
（2）おうちの人と調べてみよう 25

4 みんなで取り組む水害へのそなえ 32

（1）みんなで取り組む「流域治水」 32

（2）地域の人との助け合い 37

この本の見方



言葉の意味を知ろう

そのページで学ぶ言葉の意味を説明しています。

考えてみよう

自分で、あるいはおうちの人と考えてみましょう。

もっと知ろう

授業で学ぶことに関係することを取り上げています。時間があるときに読んでみましょう。

1 わたしたちの土岐川・庄内川流域

考えてみよう

みなさんは川へ遊びに行ったことはありますか。
川はどのようなことに利用されているでしょうか。

（1）土岐川・庄内川ってどんなところ？

土岐川・庄内川は、岐阜県恵那市の夕立山から流れはじめ、岐阜県内の盆地を流れ、愛知県の平野を流れて伊勢湾に流れこみます。

庄内川は、昔は、流れている場所の地名でそれぞれ呼ばれていました。明治時代に名前を統一して「庄内川」となったようですが、今でも、岐阜県内では、「土岐川」と呼ばれています。

川の周辺には、下流域に名古屋市や春日井市や瀬戸市、中流域に多治見市など、たくさんの人や企業などが集まる地域が多くあります。

川の周りにはいろいろな町があるね。

土岐川・庄内川流域は新幹線が通っていて、東京や大阪などの他の大きな町をつなぐ地域でもあるね。

※主な川のみ表示しています

土岐川・庄内川は、地域によってさまざまな利用をされています。

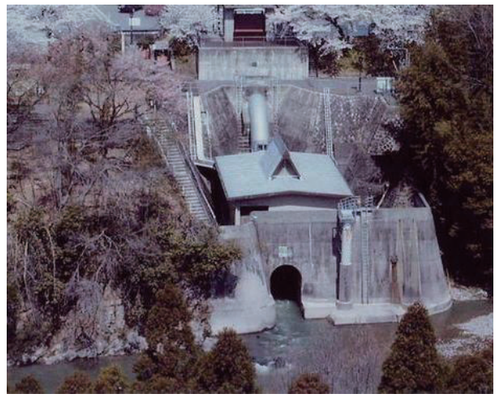
古くから農業や工場などで水を利用しているほか、中・上流域の水力発電所では電気を作るために水が使われています。

公園や花火・お祭り・水遊び・自然観察場として利用されるほか、生きものにとっての大切なすみかにもなっています。

とくに河口の藤前干潟は、水鳥であるシギ・チドリ類が渡ってくる日本最大級の重要な湿地で、ラムサール条約湿地に登録されています。

虎渓用水広場(多治見市)
出典：虎渓用水広場ホームページ

小里川ダム(恵那市・瑞浪市)



玉野水力発電所(春日井市)
出典：春日井市ホームページ

庄内用水頭首工(名古屋市)

言葉の意味を知ろう

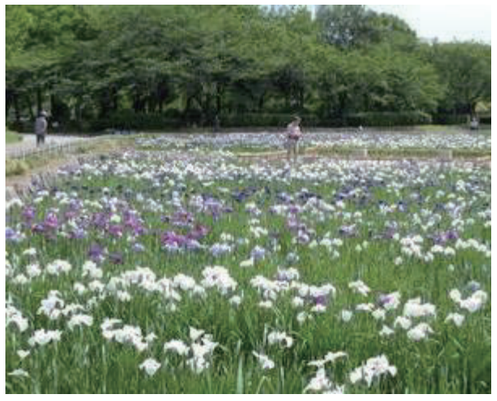
ラムサール条約湿地

「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）」の締約国が指定し、管理する湿地

参考：環境省　ラムサール条約と条約湿地　https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/index.html

織部まつり(土岐市)
出典：土岐市

自然観察(春日井市)



庄内緑地公園(名古屋市)
出典：庄内緑地グリーンプラザ

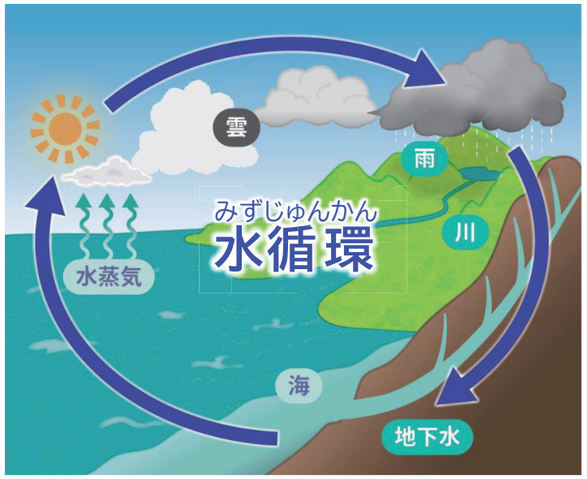
藤前干潟(名古屋市)
出典：名古屋市ホームページ

土岐川・庄内川はわたしたちの生活や生き物に豊かな恵みをあたえているんだね。
わたしたちの学校や家の近くでは、どのような景色がみられるかな。

（2）「流域」ってなに？

地上に降った雨や雪は、地中にしみこんだり、水路や小さい川などに流れこみ、やがて大きな川に集まって、海へ流れていきます。

海や川などの水面で温められた水は空にのぼって雲になり、また雨や雪となって地上にふることを繰り返しています。このことを「水循環」といいます。



出典：政府広報オンライン
（https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201507/4.html）

「流域」のイメージ
出典：水害に関するワンポイント（令和4年3月改訂版）/国土交通省
（https://www.mlit.go.jp/river/bousai/education/guide.html）

「流域」は、海まで続く大きな川に、水が集まってくる範囲のことです。

水は、高い場所から低い場所へ流れます。そのため、水が集まる「流域」の範囲は、山の尾根などの地形で決まります。くわえて、雨水が流れている水路や下水道などがどの川へ繋がっているかによって、水の集まる範囲が決まります。

4年生の理科で勉強する「天気」や、社会で勉強する「飲み水」や「下水道」などにも関係しているよ。

また、川に関係する地域として、洪水で川からあふれた水が到達する可能性がある地域を、「流域」に含む場合もあります。

「流域」は、「県」や「市」などの境界をこえた、「その川に関わる地域全体」のことなのです。

「土岐川・庄内川流域」は、愛知県と岐阜県にまたがる、1,010㎡にもおよぶ広さの地域を指します。

土岐川・庄内川流域の範囲

（3）庄内川中流域の特徴

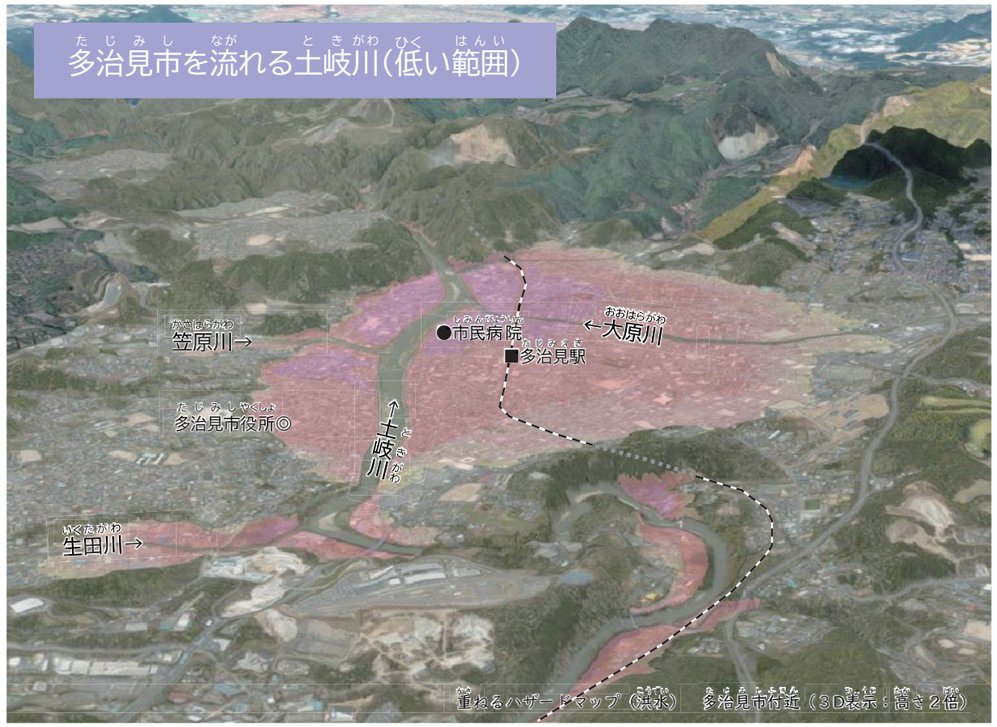
土岐川・庄内川は、上流域は渓谷を流れ、中流域では盆地に囲まれた地形を流れ、下流域では平野や台地の間を抜けて平野をゆるやかに流れています。

ここでは、中流域の特徴をみていきましょう。

特徴①　盆地の低いところを流れている

中流域では、山に囲まれた盆地の中心にある平らな土地を川は流れ、周りの山からは支川が流れこんでいます。土岐川の周りの平らな土地には、多治見市と土岐市の市街地があります。

川の周辺は、線路や大きな道路がとおり、市役所や病院などの重要な建物も建っています。



特徴②　山が川から近い

多治見市や土岐市の市街地は平らな、ひらけた土地ですが、それ以外の場所では、山に囲まれた渓谷を、土岐川は流れています。ひらけた土地であっても、市街地からすぐ近くに周辺の山々がせまっています。

山から流れてくる川の水は、いきおいよく土岐川に流れこみ、平らな低い土地は、水が集まりやすくなっています。そのため、土岐川は急激に水位が高くなることがあります。

また、周辺の山では、土砂災害が起きる可能性もあり、川から少し離れた高い土地であっても注意が必要です。

特徴③　支川は、土岐川に合流する場所の上流であふれやすい

支川は、山の中を流れるときは速く、その後、平らな土地を流れるときにはゆるやかになります。

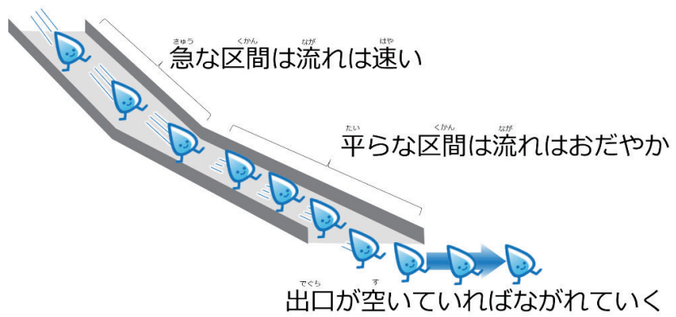
そのため、出口がふさがっていると、川から水はあふれてしまいます。

土岐川の水位が上がっているとき、支川の出口ふきんでは、行き場がない水があふれてしまうことがあります。

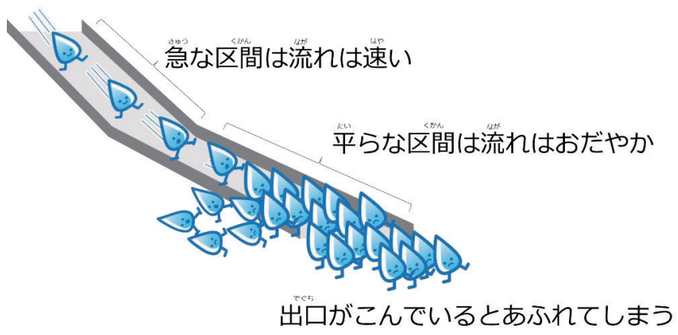
このようなことは、「バックウォーター現象」と呼ばれています。

なお、支川の出口には、土岐川の水が逆流してこないように、洪水のときは門を閉めて、支川の上流からくる水や下水の雨水をポンプで土岐川に強制的に流しているところもあります。

晴れの日・ふだんの雨　のとき



大雨　のとき

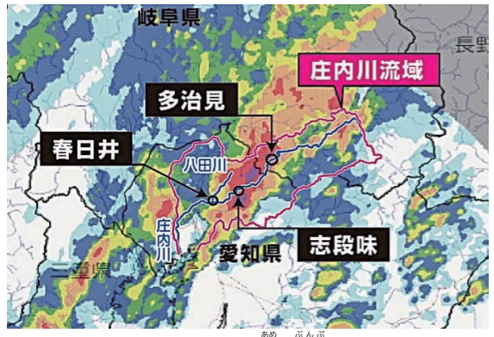


2 水害時における危険

中流域では、盆地の低いところを川が流れていて、水が集まりやすいところなんだね。土岐川の周辺で実際に水があふれたりしたことはあるのかな？

（1）平成23年9月台風第15号豪雨では どんなことがおこった？

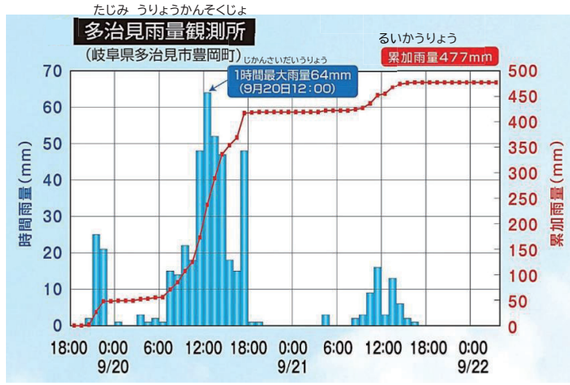
平成23年9月20日、台風第15号の影響で、多治見市の雨量観測所では、9月19日の降り始めから2日間で477mmという大雨を観測しました。



レーダーによる雨の分布

このとき、多治見市では、支川の大原川や脇之島川からの水が土岐川に流れこむことができずにあふれました。

また、下水道や小さい水路でも大雨を流しきれずにあふれ（「内水はんらん」といいます）ました。



多治見市では、平和町で最大2.66mの高さまで浸水、床の上まで浸水した家は439戸、床の下が浸水した家は183戸、市民病院周辺も浸水する被害をうけました。

考えてみよう

平成23年9月台風第15号豪雨のときの資料をみて、どんなことが起きたのか、どんなことに困ったか・大変だったかを考えてみよう。

浸水区域と写真の位置

とても深く浸水しているところもあるね。

ふだんのようす

土岐川水位観測所のようす

洪水のときはこんなふうになってしまうんだね。

ふだんのようす

多治見橋上流のようす

志段味地区での越水の様子

越水によって堤防が侵食された様子

下流の名古屋市の方では、庄内川の堤防からあふれて、堤防がこわれたところもあったんだ。

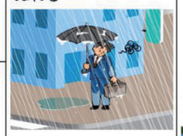
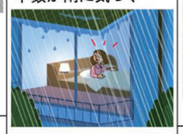
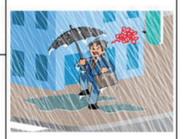
もっと知ろう

大雨ってどんなとき？

台風が近づいているときなど、テレビなどで「明日は猛烈な雨になるおそれがあります。できるだけ外出はひかえましょう。」というアナウンスを聞いたことはありませんか。

テレビなどでの雨の表し方は、下の表の通りに決まっています。

例えば、「1時間雨量20mmの雨」とは、「降った雨がそのままとどまった場合、1時間で20mmの深さまで雨がたまること」を示します。50mmをこえるとひじょうに危険です。

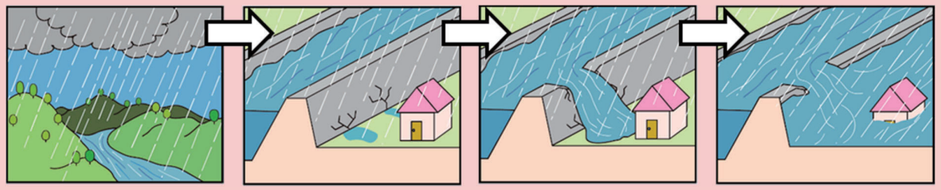
1時間雨量（mm）	予報用語（人のうけるイメージ）	人への影響	屋内	屋外	車に乗っていると
10～20	やや強い雨（ザーザーとふる）	地面からのはね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声がよく聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20～30	強い雨（どしゃぶり）	かさをさしていてもぬれる 	寝ている人のおよそ半数が雨に気づく 		ワイパーをはやく動かしても見づらい
30～50	はげしい雨（バケツをひっくりかえしたようにふる）			道路が川のようになる	スピードをあげているとブレーキがかかりにくい
50～80	ひじょうにはげしい雨（滝のようにふる）	かさがまったく役に立たなくなる 		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80～	もうれつな雨（息苦しさ、恐怖を感じる）				

出典：雨の強さと降り方/気象庁ホームページを参考に作成

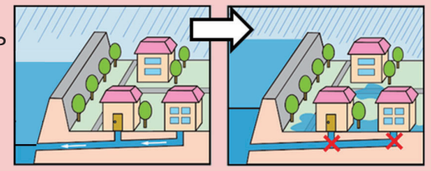
もっと知ろう

水害はどうやっておこるの？

川を流れる水の量が多くなると、堤防から水があふれてきたり、堤防がこわれてまちに水が流れてきます。これを「外水はんらん」といいます。

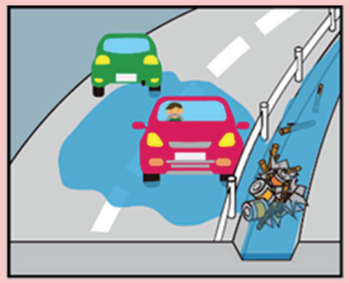


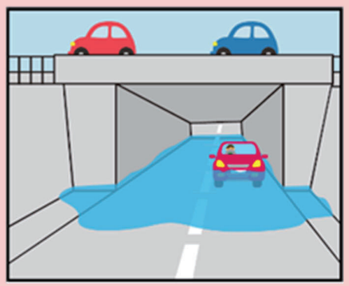
ふだんは、街中に降った雨は、水路や下水道などを通って川に排水されます。



しかし、大雨が降ると川の水の量がふえ、川の水位が高くなって、街中の水が排水できなくなってあふれてしまうことがあります。これを「内水はんらん」といいます。

「内水はんらん」は、川とは関係ない場所でも、排水溝にゴミがたまって水が流れなくなってしまい道路に水があふれるなどしておこることもあります。道路や鉄道の高架下など、道路が低くなっているところに雨水がたまることもあります。





（2）この地域ではどんな水害に気を付けたらいいの？

考えてみよう

水害は種類がいくつかあります。それぞれの危険な場面の例をみて、どんな危険があるか、どんな違いがあるか考えてみましょう。

（例をみる⇒P38へ）

内水はんらん

市街地では、ふだんの雨で道路や街中に水がたまらないように、「下水管に早く雨水を流し、川へ排水する仕組み」があります。しかし、街中の水が排水できなくなってあふれてしまい、内水はんらんがおきてしまいます。

低い道路が浸水し、車が水没した様子
出典：国土交通省関東地方整備局千葉国道事務所　X（旧twitter）

地下鉄駅への階段で勢いよく水が流れこむ様子
出典：福岡水害（H11.6.29）/九州地方整備局
（https://www.qsr.mlit.go.jp/bousai/index_c17.html）

内水はんらんでも、車が水没したりするんだね・・・
水がながれこむ階段はとても危ないよ！

もっと知ろう

雨からまちを守る施設

多治見市には、下水道に流れた雨水を、ポンプで強制的に川に排水するポンプ場があります。

この動画では、ポンプ場の中の様子もみることができます。

参考：おりべネットワーク　こちら多治見市雨水ポンプ場
https://www.youtube.com/watch?v=af5aFZDfajw

外水はんらん

川で流すことができる量を超えて雨が降ったときに、川の水が堤防を越えたり堤防が決壊したりして、堤防から水があふれだすことを外水はんらんと言います。

平成12年東海豪雨での新川決壊の様子

新川の決壊によりこわれた家
出典：新川破堤の復旧作業/愛知県河川課

内水はんらんの後に続けて、外水はんらんがおきることもあるよ！下流域で雨が降っていなくても、「流域」の中で大雨が降っていると、下流で外水はんらんがおきることもあるよ！

土砂災害

大雨などで地面に水がたまって、くずれ、大量の土砂が人が住む場所をおそい、家や道路などの施設を破壊するのが土砂災害です。

土砂の流れる力はとても大きく、ものすごい速さでやってくるため、発生してから走って逃げるのは困難で、多くの命が犠牲になる場合が多い災害です。

土砂災害によってこわれた家

出典：令和5年台風第2号による土砂災害発生状況/国土交通省

もっと知ろう

土砂災害から命を守る方法

土砂災害には、主に、がけ崩れ、地すべり、土石流の３種類あります。

土砂災害から命を守るには、前もって、土砂災害がおきる可能性のあるところを知り、どこに避難したらよいかをしっておくことが大切です。

参考：内閣府防災　公式チャンネル
https://www.youtube.com/watch?v=T03pHCj4ags

もっと知ろう

わたしたちのすむ地域は、昔はどんなところだった？

現在は道路や家があるところでも、昔は、

・川が流れていたところ
・沼や池だったところ
・田んぼが多かったところ

があり、このような場所は、とくに水が集まりやすい場合があります。

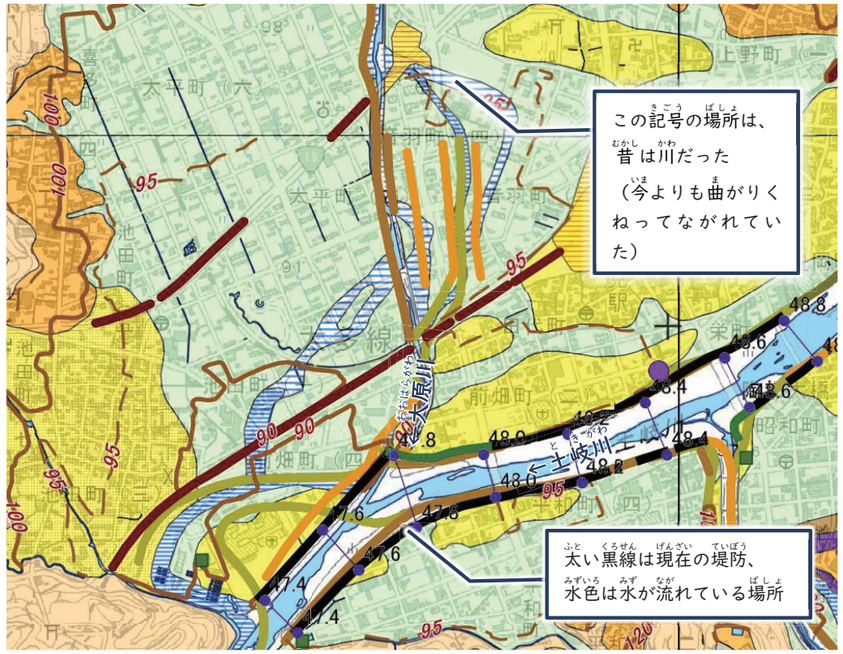
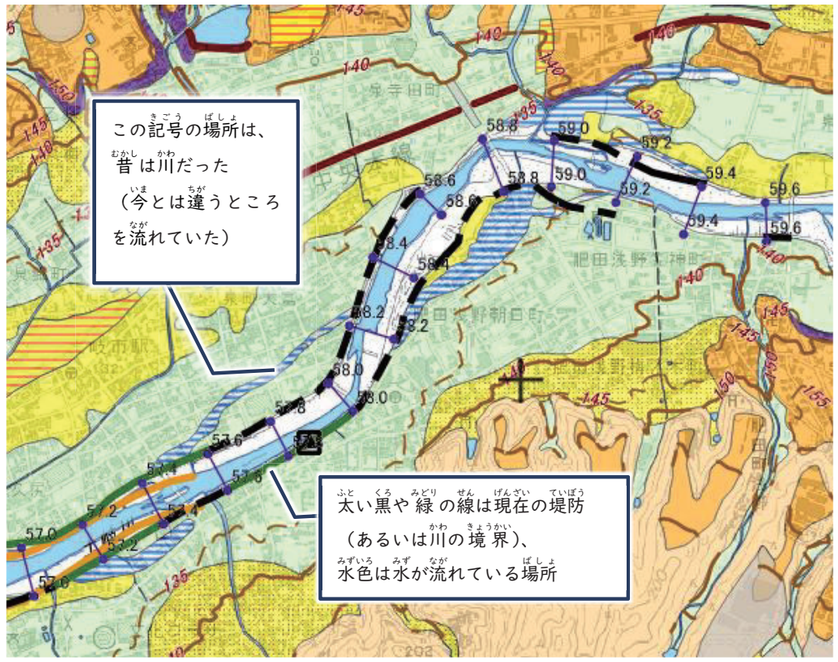
このようなところでは、内水はんらんがおきやすかったり、外水はんらんがおきたときに、深く浸水したり、洪水の通り道になる場合もあります。

自分たちの住む地域が、昔どんなところだったのかは、地名（水に関係する名前があるなど）でわかる場合もあります。調べてみましょう。

次のページの地図は、土岐川中流域の周りで、昔、川や水の流れがあったような場所を示しているよ。
今はどのようになっているかな？

参考：治水地形分類図/地理院地図
https://maps.gsi.go.jp/

記号	説明	地理院地図での凡例	
	左の記号がある地域は、昔は川だった	旧河道	旧河道（明瞭）
			旧河道（不明瞭）
		旧流路	昭和30年代後半から昭和40年代前半
			昭和20年代
			大正末期から昭和初期
			明治末期から大正末期
	左の記号がある地域は、人工的に埋立などをした	盛土地・埋立地	

多治見市	
土岐市	

出典：国土地理院ウェブサイト（https://maps.gsi.go.jp/）

3 水害時にわたしたちがとるべき行動

（1）水害がおこるまでの身の周りの変化

大雨によっておきる「内水はんらん」は、みなさんが登下校するときや、家で留守番をしているとき、家や学校以外で過ごしているときに発生するかもしれません。

また、「外水はんらん」は、大雨が何時間も続くような場合に、「内水はんらん」の後に続けて発生する場合もあります。

万が一のときにそなえて、わたしたちの身に危険があるときにすべきことを考えてみましょう。

考えてみよう

雨が降ったとき、周りのようすはどのように変化するでしょうか。そして、わたしたちにどのような影響があるでしょうか。

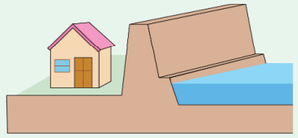
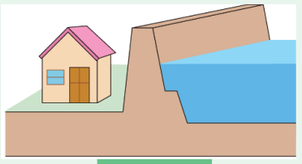
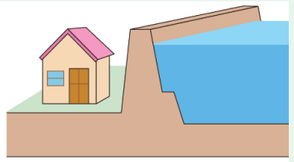
次のページをみて、わたしたちがとるべき行動を考えてみましょう。

【こんなとき、どうしたらよいかな？】

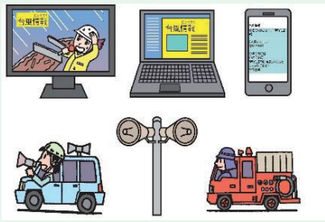
おうちの人とも話しあって、一人でいるときのことを決めておきましょう。

- 家にいるときに、「はげしい雨」が降ってきた
- 友達の家や習い事など、家以外で、「はげしい雨」が降ってきた
- 外にいるとき、いつも通っている道に、水がたまっていた

（例をみる⇒P39へ）

雨のようす	川のようす	周りのようす
―	ふだんのようす 	―
ザーザーと降る、 **やや強い雨**	ふだんより水の量がふえる 	水たまりができる
どしゃぶりの **強い雨**	ながびくと	道路が川のようになる 低いところで水がたまる 低いところは家の中に水が入ってくる （内水はんらん）
バケツをひっくりかえしたように降る、 **はげしい雨**	水面が堤防の天端に近づく  	
滝のように降る、 **ひじょうにはげしい雨**	ながびくと	
水しぶきであたり一面が白っぽくなり、周りがよく見えなくなるような、 **もうれつな雨**	あふれる ・堤防がこわれる （外水はんらん） 	家がこわれることもある まちが浸水する 外水はんらんがおきると

出典：雨の強さと降り方/気象庁ホームページを参考に作成

わたしたちへの影響	とるべき行動
―	避難の準備をしておく
外を歩くのがたいへん 	おうちの人と今後の雨のようすについて調べる
足元が見えない げんかんが浸水 マンホールや水路にはまって、おぼれたり流されたりする ドアがあかず、外に出られない 	危険な所にいるときは、早めに安全なところへいっしょに移動（避難）
今いるところから動けない 	安全なところで、今後の雨や川のようすについて調べる 

（2）おうちの人と調べてみよう

自然災害が発生したときに、どこでどのような被害がおこるかを予測して、地図上に危険な地域や避難場所などを示したものを「ハザードマップ」といいます。自然災害は、地震、津波、高潮、土砂災害、水害（内水はんらん・外水はんらん）などさまざまですが、それぞれの災害についてハザードマップが多くの自治体で作られています。

※ハザードマップは自宅に市町村から配布されることが多いですが、ハザードマップポータルサイトから確認することもできます。

※「ぎふ山と川の危険箇所マップ」では、岐阜県内の様々な災害について、最新の情報をまとめて表示して、確認することができます。

ぎふ山と川の危険箇所マップ
https://kikenmap.gifugis.jp/

考えてみよう

地域の内水・洪水ハザードマップを見ながら、身の回りの危険な場所を確認しましょう。
※洪水ハザードマップは、外水はんらんを想定したマップです。

【ハザードマップでの確認手順】

① 学校・自宅・よく行く場所（習いごと、近くの親戚の家、よく遊びに行くところなど）に印をつけましょう。

② ①で印をつけたところは、水害によって建物がたおれるおそれがある地域（家屋倒壊等氾濫想定区域）に入っていますか？

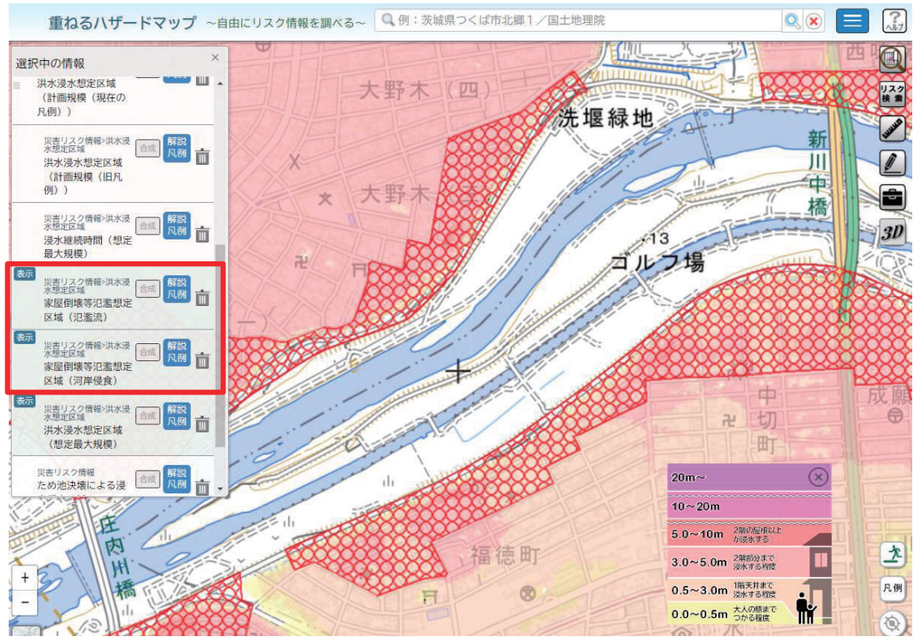
種類	氾濫流	河岸浸食
説明	川からあふれた水のいきおいで、建物が流されるおそれがある場所	建物の土台部分がけずられて、建物がたおれるおそれがある場所
しるし	重ねるハザードマップでの表示	
	土岐市洪水ハザードマップでの表示	
例	平成30年（2018年）7月豪雨 愛媛県大洲市東大洲	平成24年（2012年）7月豪雨 大分県日田市三和地区

出典：国土交通省　四国地方整備局

出典：平成24年7月3日からの梅雨前線豪雨による被害と九州地方整備局の対応/国土交通省

※山際の場合は、土砂災害ハザードマップや、「愛知県土砂災害情報マップ（参考P19）」、「ぎふ山と川の危険個所マップ」も確認しましょう。危険な区域内では、土砂災害で家がこわれる可能性が高いです。

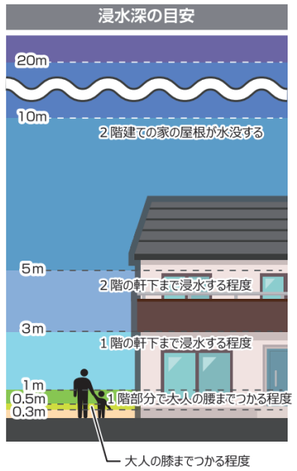
※市町村の洪水ハザードマップに、記載がない場合は、重ねるハザードマップでも確認してみましょう。



出典：「ハザードマップポータルサイト」を編集

③　①で印をつけたところは、水につかりますか？どのくらいの高さまでつかりますか？

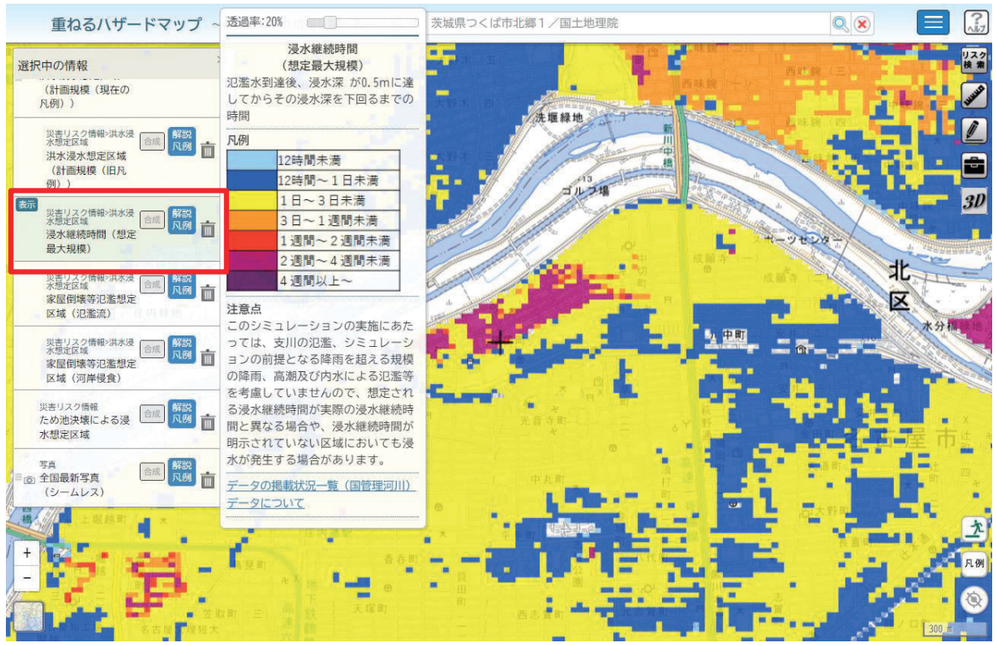
※市町村によって、洪水ハザードマップの浸水する深さを示す色や高さは違っています。それぞれのハザードマップの説明をよくみて確認しましょう。



例）土岐市の洪水ハザードマップの色の示し方
出典）土岐市 洪水・土砂災害ハザードマップ

④　①で印をつけたところは、どのくらいの期間浸水しますか（浸水継続時間の図で確認しましょう）？

※市町村の洪水ハザードマップに、記載がない場合は、重ねるハザードマップでも確認してみましょう。



出典：「ハザードマップポータルサイト」を編集

⑤　②から④までの結果をみて、①の場所は、大雨のときにとどまっていても（あとに外水はんらんがおきても）安全な場所か確認しましょう。

※たてものがこわれる可能性があるところや、長い期間浸水する可能性があるところでも、学校のように大きく頑丈な建物や、数日間すごせる備蓄品（水・食料や毛布など）が準備されているところは、大丈夫なところもあります。各災害の避難場所に指定されている場合は、無理に移動しないほうが安全です。

⑥　④で、危険な場所である場合は、避難先として安全な場所をさがしましょう。

例：土岐市の避難所・避難場所のマークと意味

出典：土岐市　（避難所のページ）

このマークは、自宅が被災して帰宅できない場合、避難生活を送るためのところ（　　災害の種類ごとに安全なところは異なるので、どのようなときに使えるかが○×でかかれています。）

命を守るため、災害の危険からまずは逃げるための場所として、「指定緊急避難所」が別に決められている場合もあります。

※自治体によって異なるマークを使用している場合があります。ハザードマップの凡例をよく確認しましょう。

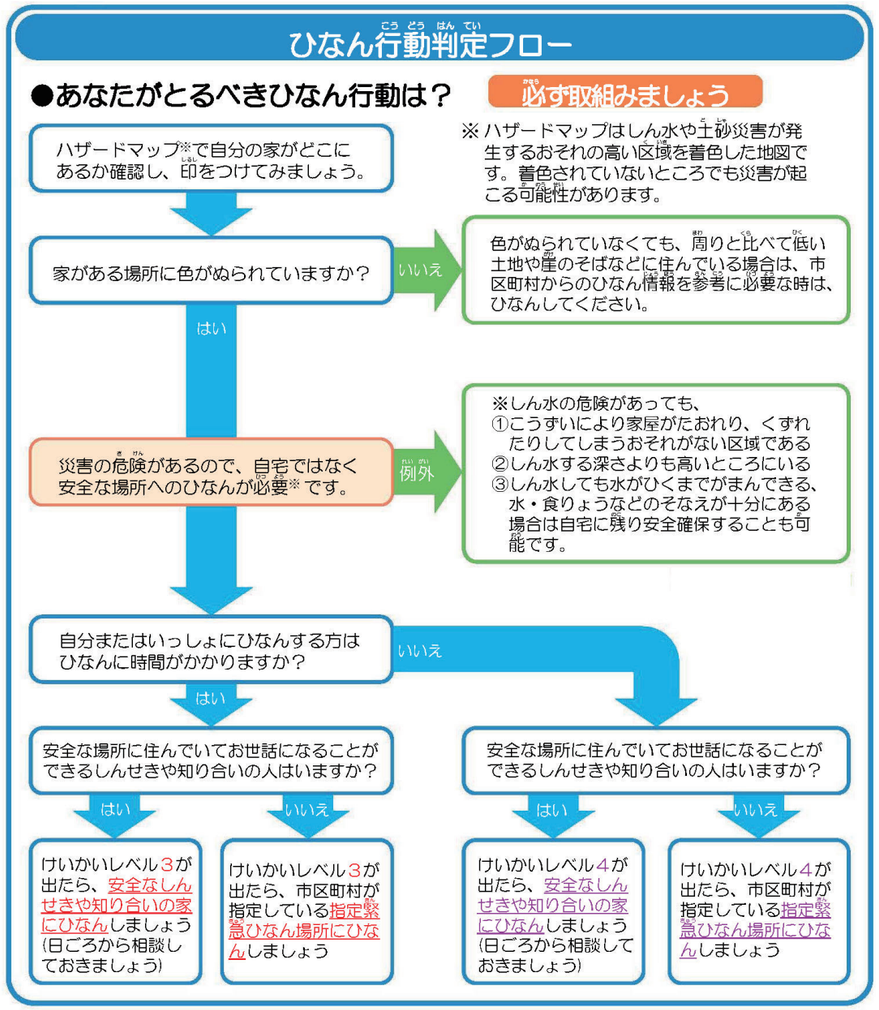
考えてみよう

大きな災害のときほど、多くの方が避難場所に逃げてきます。すると、避難場所が満員になってしまい、遠くへ移動することができない人達（移動手段がないなど）が避難することができなくなってしまいます。

みんなが安全を確保するには、どうしたらよいでしょう？

※地域に「避難」の情報がでていても、安全な地域にいるときや、高いところへ移動すれば安全な場合は、無理に避難場所に移動する必要はありません。移動途中で、流されたりケガをしたりする危険性もあります。

※ハザードマップにのっている避難場所だけが避難先ではありません。早い段階（道路が浸水していない、雨風が危険ではない時点）で移動できる場合は、他の安全な地域の親戚などの家やホテルなどに身を寄せることも考えましょう。



避難行動判定フロー

出典：内閣府　「避難行動判定フロー」を確認しましょう
（https://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline）

もっと知ろう

避難についての情報

災害がおこりそうなとき、市町村長は、地域ごとに「避難情報」を発令します。意味や危険のレベルを知っておいて、避難の目安にしましょう。

警戒 レベル3	高齢者等避難	「災害が　おきるので　逃げる準備を　してください」 という知らせです。 お年寄りや子ども、逃げるのに時間がかかる人は逃げてください。
警戒 レベル4	避難指示	「大きい災害で　とても危ないです。　すぐ逃げてください」 という知らせです。みんな、安全な場所にすぐ逃げてください。
警戒 レベル5	緊急安全確保	「近くで　災害が　おきています」 という知らせです。 命を守ってください。あなたの家や、近くの家の高い部屋などに逃げてください。外に出ると危ない時は家の中にいてください。

警戒レベルの意味　例　：　名古屋市防災ガイドライン

マイ・タイムラインを作ろう

どんな状況になったら避難行動をするか決めておけば、いざ危険な状態になったときにも、あわてずにすみます。おうちの人と、どんなときにどんな行動をするか、いっしょに考えておき、常に早めの避難をこころがけましょう。

参考：岐阜県　災害・避難カード
https://bousai.pref.gifu.lg.jp/

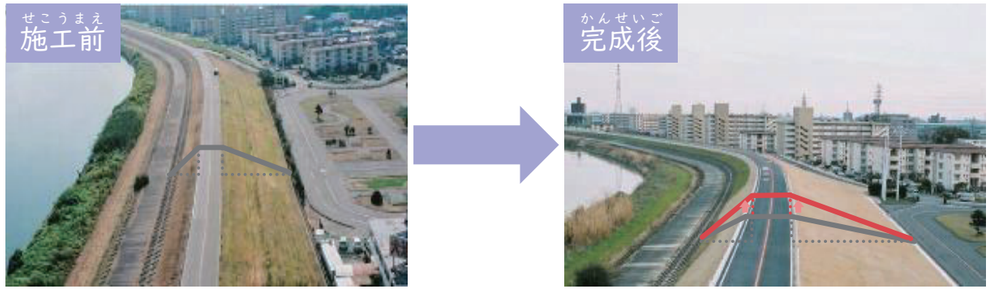
参考：逃げキッド　（全国で利用できるようにつくられた資料です）
http://www.river.or.jp/jigyo/my-timeline_download.html

4 みんなで取り組む水害へのそなえ

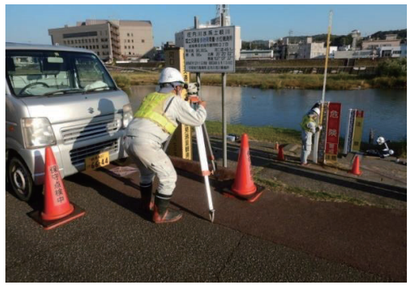
（1）みんなで取り組む「流域治水」

ハザードマップをみると、土岐川・庄内川で外水はんらんがおきると、とても広い地域が浸水してしまうんだね。
被害をおさえるために、どんな取組がされているのかな？

外水はんらんがなるべくおきないようにする取組（治水対策といいます）は、これまでは、川を管理する人たちが、川やダムなどの整備をしたり、川の管理をすることが中心でした。川の工事によって、東海豪雨の前よりは安全になりました。しかし、まだまだ川の整備は必要です。



堤防の工事　（堤防の高さや幅が不足していた箇所を整備）



川の状況を調査（測量）

川の中の土砂をとる工事

また、大雨のときや水害がおきそうな時には、川を管理・監視する人たち、あふれないように対策する人たち、天気を予想する人たち、避難情報を発令する人たち、情報を伝える人たち、地域の人の避難を手助けする人たちなど、さまざまな人が関わって、被害をおさえたり、命を守るための取組をしています。

川のパトロール　（川を管理・監視する人たち）

水防活動（あふれないように対策する人たち）

ダムの管理や操作（川を管理・監視する人たち）

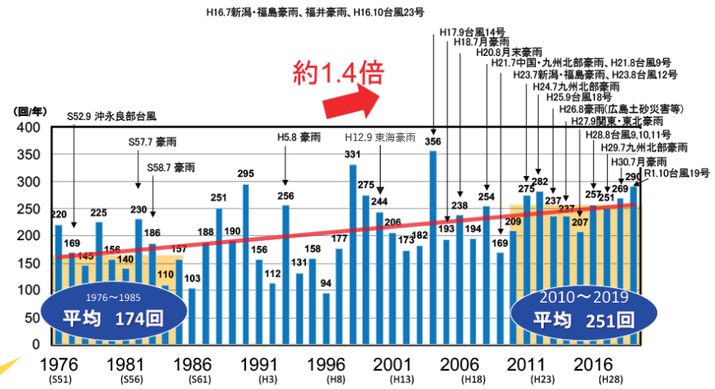
情報を伝える・地域の人の避難を手助けする人たち（自主防災組織）
出典：あいちの自主防災組織「大治町明治町自主防災会」/愛知県

万が一、水害が発生してしまったときには、救助をしたり、まちに入った水を早く排出したり、川や道路をなおしたり、被害をうけた人たちが早く元の生活にもどれるように、たくさんの人たちが、地域のために活動します。

排水作業

救助や片付けなどの支援活動

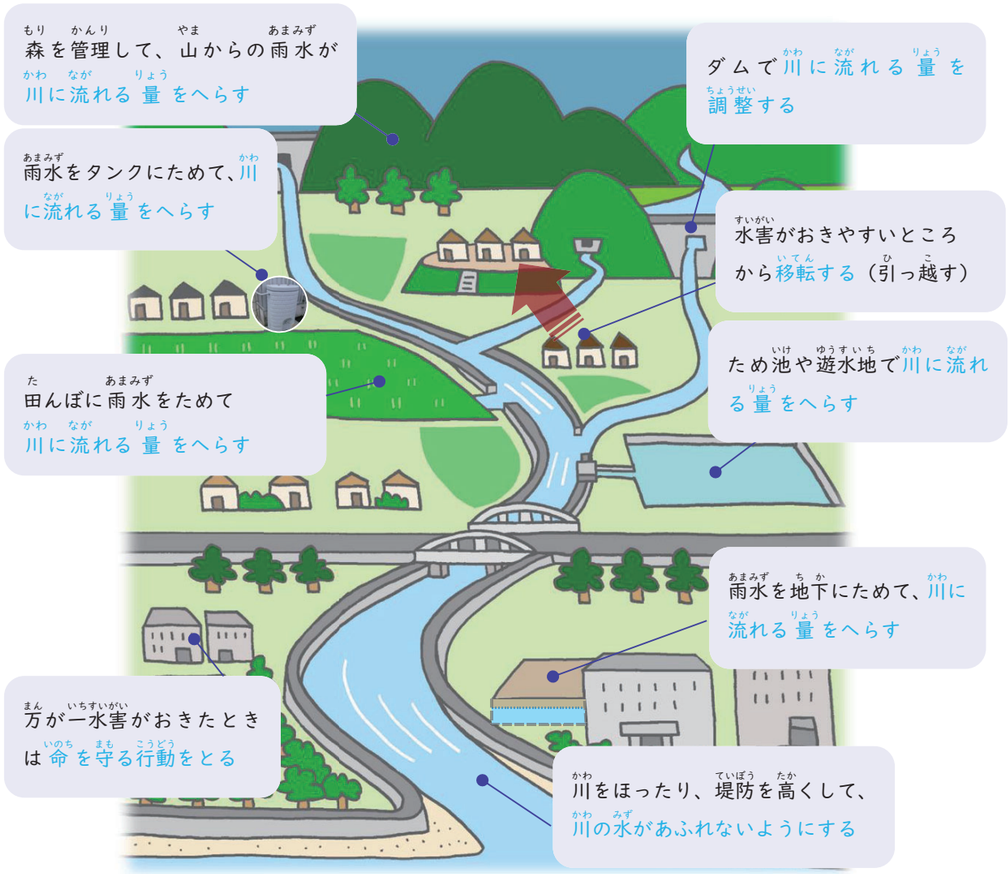
その一方で、最近の雨はひじょうにはげしく、これまでどおり施設だけの取組では、被害が防げません。



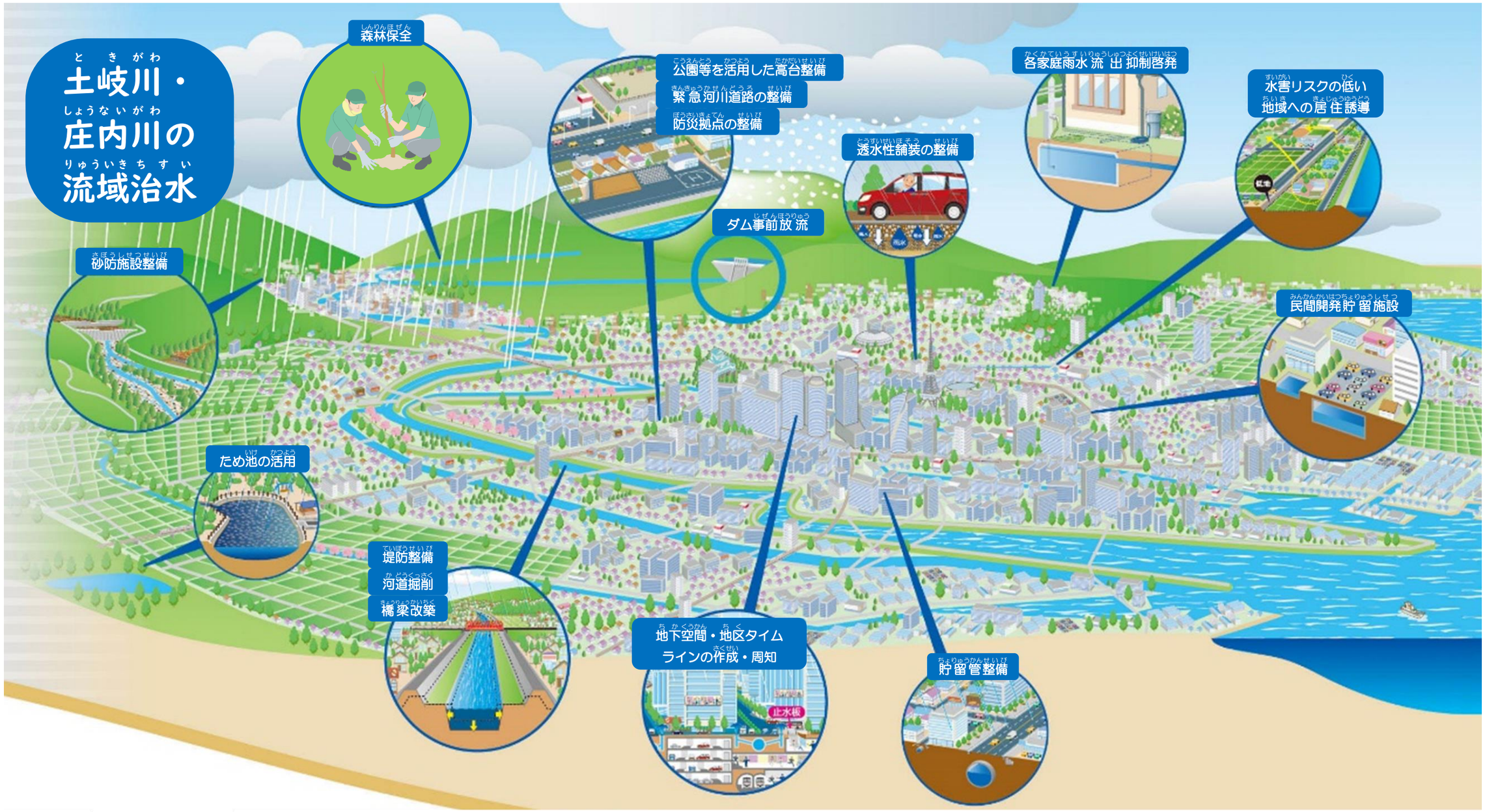
出典：カワナビ/国土交通省（気象庁資料より作成）
（https://www.mlit.go.jp/river/kawanavi/prepare/vol11_1.html）

「ひじょうにはげしい雨」の回数が、昔よりもふえている！

「流域」にいるみんながいっしょになって、水害にそなえる・水害をへらす取組が必要なのです。この取組を**「流域治水」**といいます。



4 みんなで取り組む水害へのそなえ



もっと知ろう

流域治水カード

土岐川・庄内川流域のさまざまな流域治水の取組を紹介したカードを、市町村役場や事務所、広報施設などで配布しています。どんな取組があるのか調べてみましょう。

流域治水カードについて：
https://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/bousai/ryuuiki_chisui_kyougikai/index.html

考えてみよう

わたしたちが、家や学校でできる流域治水の取組は何があるでしょうか？

ヒントは、「ふだん、水を多く使うこと」「水害へのそなえ」「（タンクなど）で雨を貯める」です。

（例をみる⇒P39へ）

（2）地域の人との助け合い

ふだんから、地域の人たちのために、防災についての情報を伝えたり、訓練をしたり、準備をしている人たちがいます。地域の訓練に参加したり、おうちの人とハザードマップで確認したり、そなえをしたりする活動は、わたしたちができる「流域治水」の取組の１つです。

また、大雨のときには、さまざまな情報をだしたり、知らせたりする人たちがいます。それらの情報を自分たちで集めにいったり、確認したりして、それぞれが「自分の命を守る行動」をとることも、「流域治水」の取組の１つです。

また、早めに避難行動をとることは、地域で避難の支援活動をしている人たちに協力することにつながります。

高齢者や小さい子どもや赤ちゃんなど、一人で避難することがむずかしい人がいたら、周りの人といっしょに手助けしたり、そのような人たちが近くの避難場所で安全を確保するために、移動がしやすい人は少し離れたところで安全を確保するなど、地域の人たちのことを考えることも大切です。

みなさんが将来、どのような地域に住むことになっても、この本で学んだことは、自分や大切な人たちの命を守ることになり、長く住み続けられる地域を作ることにつながります。できるところから、流域治水をはじめていきましょう。

考えてみよう　の例

ここでは、「考えてみよう」の例を紹介します。

これだけが正解ということではありません。いろいろなことを想像することが、流域治水の取組を広げることにつながります。

P11　平成23年9月台風第15号豪雨のときの資料をみて、どんなことが起きたのか、どんなことに困ったか・大変だったかを考えてみよう。

- とても深く浸水した
- 家の車や家具、会社や工場などのたくさんのものが水で使えなくなってゴミになった
- 病院や道路が浸水して、いつもの生活ができなくなった
- 学校や仕事にいけなくなった

P17　水害は種類がいくつかあります。それぞれの危険な場面の例をみて、どんな危険があるか、どんな違いがあるか考えてみましょう。

- （内水はんらん）道路の低いところに車が入ってしまい、おぼれる
- （内水はんらん）水路や足元がみえずに、ころんだり流されたりする
- （外水はんらん）家がこわれる
- （土砂災害）家がこわれる、すごいスピードでおそってくる

P22　雨が降ったとき、周りのようすはどのように変化するでしょうか。
そして、わたしたちにどのような影響があるでしょうか。
次のページをみて、わたしたちがとるべき行動を考えてみましょう。

【こんなとき、どうしたらよいかな？】
おうちの人とも話しあって、一人でいるときのことを決めておきましょう

- **家にいるときに、「はげしい雨」が降ってきた**
- **友達の家や習い事など、家以外で、「はげしい雨」がふってきた**
- **外にいるとき、いつも通っている道に、水がたまっていた**

- おうちの人と連絡をとって、すぐにやむような雨かどうか調べてもらう
- ながびくような雨のときは、今いる場所が安全なところか、おうちの人やいっしょにいる大人に確認してもらう
- 安全でないときは、大人といっしょに、安全な場所に移動する
- いつも通っている道でも、水が深くたまって足元が見えない場合は、無理に通らない（通らざるをえない場合は、傘など長いもので足元を確認しながら、いっしょにいる人と支えあいながら進む）

P36　わたしたちが、家や学校でできる流域治水の取組は何があるでしょうか？ヒントは、「ふだん、水を多く使うこと」「水害へのそなえ」です。

- 大雨のときは、お風呂のお湯を流すことや洗濯を後にする（家庭から流す水の量をへらす）
- ハザードマップを確認したり、避難の準備をする、避難のためにどんな情報を確認するか前もって調べておく
- 川について知る活動に参加する（いきもの調査や、川遊びなど）ことで、川のめぐみをうけながら、気を付けるべきことを知る

メモ

土岐川・庄内川流域治水協議会

国土交通省　中部地方整備局　庄内川河川事務所